

# オンラインおよびオフラインにおける「居心地の良い場所」に求める条件

○藤井 美里 (FUJII Misato)、竇 雪 (DOU Xue)

**Keywords** : オンライン、オフライン、「居心地の良い場所」、友人関係期待

## 1 目的

近年、SNSなどのインターネットサービスの普及により、オンラインでの「居心地の良い場所」(インターネット上においてありのままの自分を受け入れてもらえる空間)を獲得する若者が増加している。しかし若者が何を求めて、そのような場を獲得しようとしているかについては、未だ不明な点も多い。そこで本研究では、オンラインでの「居心地の良い場所」において人々がどのような条件を求めているのかについて、友人関係期待を用いて検討することを目的とする。また本研究ではオフラインの「居心地の良い場所」に求める条件についても調査し、比較検討を行う。

## 2 方法

500人(うち男性265名、女性235名、平均年齢は28.08歳)を対象に、オンライン上で質問紙調査を行った。まずコミュニケーションを取るために利用しているSNS、その利用頻度、インターネット上で新しい人間関係を作った経験があるかについて参加者に回答を求めた。そしてオンラインおよびオフラインで「居心地の良い場所」を作る場面をそれぞれ想定してもらい、その関係において重要視するものは何かについて、友人関係期待尺度(和田, 1993)を使って回答を求めた。

## 3 結果

独立変数をコミュニケーション環境(オンライン・オフライン)、従属変数を友人関係期待とした対応ありのt検定を行った。その結果、オフライン場面の方が、相互依存( $t(499) = 5.46, p < .001$ )、協力( $t(499) = 6.14, p < .001$ )、敏感さ( $t(499) = 5.17, p < .001$ )、共行動( $t(499) = 5.25, p < .001$ )、真正さ( $t(499) = 5.62, p < .001$ )、自己開示( $t(499) = 3.96, p < .001$ )、尊重( $t(499) = 5.04, p < .001$ )の7項目が有意に高かった。それに対して、情報( $t(499) = 1.27, p = .203$ )、擬似( $t(499) = -0.99, p = .322$ )、自己向上( $t(499) = 1.02, p = .308$ )については、有意差がなかった。

## 4 結論

以上の結果から、オフラインにおける「居心地の良い場所」において、相互依存、協力、敏感さ、共行動、真正さ、自己開示、尊重の7項目が重要視されていることが明らかになった。それに対してオンラインでは、情報、擬似、自己向上が重要視されることが明らかになった。

前者の7項目がオフラインにおいて重要視された理由として、オンラインと比較してこれらがオフラインで必須となる要素であるためだと推測される。オンラインでは見知らぬ人と簡単につながることができる一方で、互いに干渉しすぎないドライな関係が築かれることも少なくない。そのため、互いに役立つこと(相互依存)や、協力し合えること(協力)、何でも話せること(自己開示)などは、オンラインにおいて必須のものではないといえる。それに対してオフラインでは相手と対面している状態であることから、その場が「居心地の良い場所」になるためには、それらの行動がかなり重要であると考えられる。

後者の3項目がオンラインにおいて重要視された理由として、多くの人が閲覧できる環境であるオンラインにおいて、相手と仲を深めていくうえで比較的抵抗感が少ないことに起因していると考えられる。藤井・竇(2024)は、オンライン上では趣味のような浅い自己開示が最も多く、その要因がオンライン上の開けた環境への抵抗感による可能性を示唆している。本調査においてもその傾向が見られたと推測され、相手から情報を得ることや趣味の共有をすること、自分自身を向上させることが重要視されたと考えられる。

## 【主要参考文献】

藤井 美里・竇 雪 (2024). インターネット上における「居心地の良い場所」の必要条件 自己開示に着目して [プレゼンテーション発表]. 第50回情報通信学会大会, 明治大学中野キャンパス.  
和田 実 (1993). 同性友人関係: その性および性役割タイプによる差異 社会心理学研究, 8(2), 67-75. <https://doi.org/10.14966/jssp.KJ00003725215>